

優秀賞

## ゆい気をおこして

大阪府 大阪信愛学院小学校三年 白川 陽渚

「あーあ。また引っかかっている。」  
わたしが大なわに引っかかるたびに、友だちのそんな声が聞こえてくるようでした。  
わたしは大なわが苦手です。一年生の時から何回やっても引っかかかってばかりで、そのたびにれんぞくでとべた回数が止まってしまいました。自分のせいでみんなにめいわくがかかると思って、ちようせんするのをやめました。友だちにさそわれても、ずっとことわっていました。

ある日、お母さんにさい近休み時間に何をしているのか聞かれました。わたしは、  
「教室で読書しているよ。みんなは外で大なわしているけど、わたしはとべなくてみんなにめいわくをかけちゃうから行かない。」  
と答えました。すると、お母さんが、

「本当は大なわしたいんじゃないの。さいしょから

できないってあきらめないで、ちようせんしてみたら。陽渚なら、きっとできると思うよ。」  
と言いました。その時、わたしは自分の本当の気持ちに気づきました。大なわがきらいなのではなくて、できないとあきらめていただけで、本当はとべるようになったりたかったのです。

次の日、わたしが友だちに大なわに行くことを話すと、きつとできるとはげましてくれました。それから、先生に大なわのコツを教えてくださいました。おねがいました。そして、休み時間になりました。みんながびよんぴよんといって、わたしの番がきました。先生が、

「一、二の三！とぶ！」  
とせ中をおしてくれました。わたしは思いきり走って、とんで、また走りました。なわが足に引っかかりませんでした。初めてとべたのです。わたしはと

べたことが信じられなくて、友だちの顔を見ました。すると、はく手してくれていました。わたしはうれしくて、空にとどきそうなくらいとびはねました。あつという間にまたわたしの番がきました。次も、

その次も、そのまた次も、何回もとべました。休み時間が終わって、先生も友だちもみんなが、  
「がんばってちようせんしてすごいね。」  
と言ってくれて、心があつくになりました。

家に帰って一番に、お母さんに大なわをとべたことを話しました。お母さんはぎゅっとだきしめて、頭をなでてくれました。わたしはなみだが出てきました。とびはねるくらいうれしい気持ちと、ほんと安心した気持ちと、自分をほめてあげたい気持ちと色いろな気持ちがあざびって、うれしなみだになったのだと思います。

わたしがめいわくをかけると思いこんでいた友だちも、心の中ではやさしくおうえんしてくれていることを知りました。これからも、はじめからできないとあきらめたり、自分の気持ちにうそをついたりせずに、ゆう気を出してたくさんのことにちようせんしたいです。

